

【児湯郡小体連】(学校数 14 校 児童数 3217 人)

I 年間事業

(☆…日程を調整中の予定)

月 日 (曜日)	事業名	内 容 【出会者】
5月10日 (金) ひなた宮崎県総合運動公園 武道館 大講義室	宮崎県小学校体育連盟 第1回評議員会 14:00~16:00	【理事長 出会】 ○ 新役員の発表及びあいさつ ○ 令和5年度報告・協議
5月31日 (金) ひなた宮崎県総合運動公園 武道館 大講義室	宮崎県小学校体育連盟 第1回理事会・専門部会 14:00~16:00	【理事長・研究部長・事業部長出会】 ○ 事務局からの報告 ○ 理事会・専門部会
6月6日 (木) たかしんホール 高鍋中央公民館	第1回児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 役員・会員の自己紹介 ○ 県小体連理事会・専門部会報告 ○ 協議(事業計画 研究構想) 等
8月19日 (金) ひなた宮崎県総合運動公園 武道館 大講義室	宮崎県小学校体育連盟 第2回理事会・専門部会・合同研修会 10:00~16:00	【理事長・研究部長・事業部長出会】 ○ スポーツ事業委託金配付 ○ 県学体研における小学校部会指導案検討
10月29日 (火) 小林市	第65回宮崎県学校体育研究発表大会	○ 小林・えびの・高原地区主催 研究発表・公開授業・授業研究会
11月26日 (火)	第2回児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 研究授業について ○ 協議(研究主題, 授業構想について) ○ 通信記録会の結果集約
2月14日 (金) ひなた宮崎県総合運動公園 武道館 大講義室	宮崎県小学校体育連盟 第2回評議員会 14:00~16:00	【会長・理事長 出会】 ○ 各地区スポーツ事業報告 ○ 各地区の小体連の研究の取り組み等
☆2月 日 () たかしんホール 高鍋中央公民館	第3回児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 協議(本年度研究のまとめと来年度 研究の方向付け、来年度の役員)

II 事業部のあゆみ

児湯郡内における児童の体力向上のために、通信水泳記録会（5、6年生児童対象）、通信陸上記録会（5、6年生児童対象）を実施した。

令和6年度 東児湯小学校通信水泳記録会実施計画案

1 目的

- 各学校の水泳記録会の発表の場を通して、泳力向上の意欲を高めるとともに、他校の泳力の実態を知る。

2 対象

- 東児湯管内の小学校5・6年児童

3 募集記録

- 各学年 男女別 自由形（25m・50m） 平泳ぎ（25m・50m）
男女別 リレー（25m×4名）

4 実施方法

- 基本的に宮崎県小学校体育連盟標準記録認定要領をもとに実施する。

5 応募方法

- (1) 各校の記録をデータでまとめ、C4thの個人連絡機能にて集計する。
- (2) 事業部で記録を集約し、第3回体育主任会で結果を報告する。
- (3) 各種目、1位から5位まで表彰する。

令和6年度 東児湯小学校通信陸上記録会実施計画案

1 目的

- 各学校の陸上（100m走・ソフトボール投げ）記録会の発表の場を通して、体力向上の意欲を高めるとともに、他校の運動能力の実態を知る。

2 対象

- 東児湯管内の小学校5・6年児童

3 募集記録

- 男女ともに100m走とソフトボール投げの記録を測定する。

4 実施方法

- (1) 100m走
 - 基本的に文部科学省が定めた「新体力テスト実施要項」をもとに実施する。
- (2) ソフトボール投げ
 - 基本的に文部科学省が定めた「新体力テスト実施要項」をもとに実施する。
 - 投球フォームは自由であるが、できるだけ「下手投げ」をしない方がよい。また、ステップして投げた方がよい。

5 応募方法

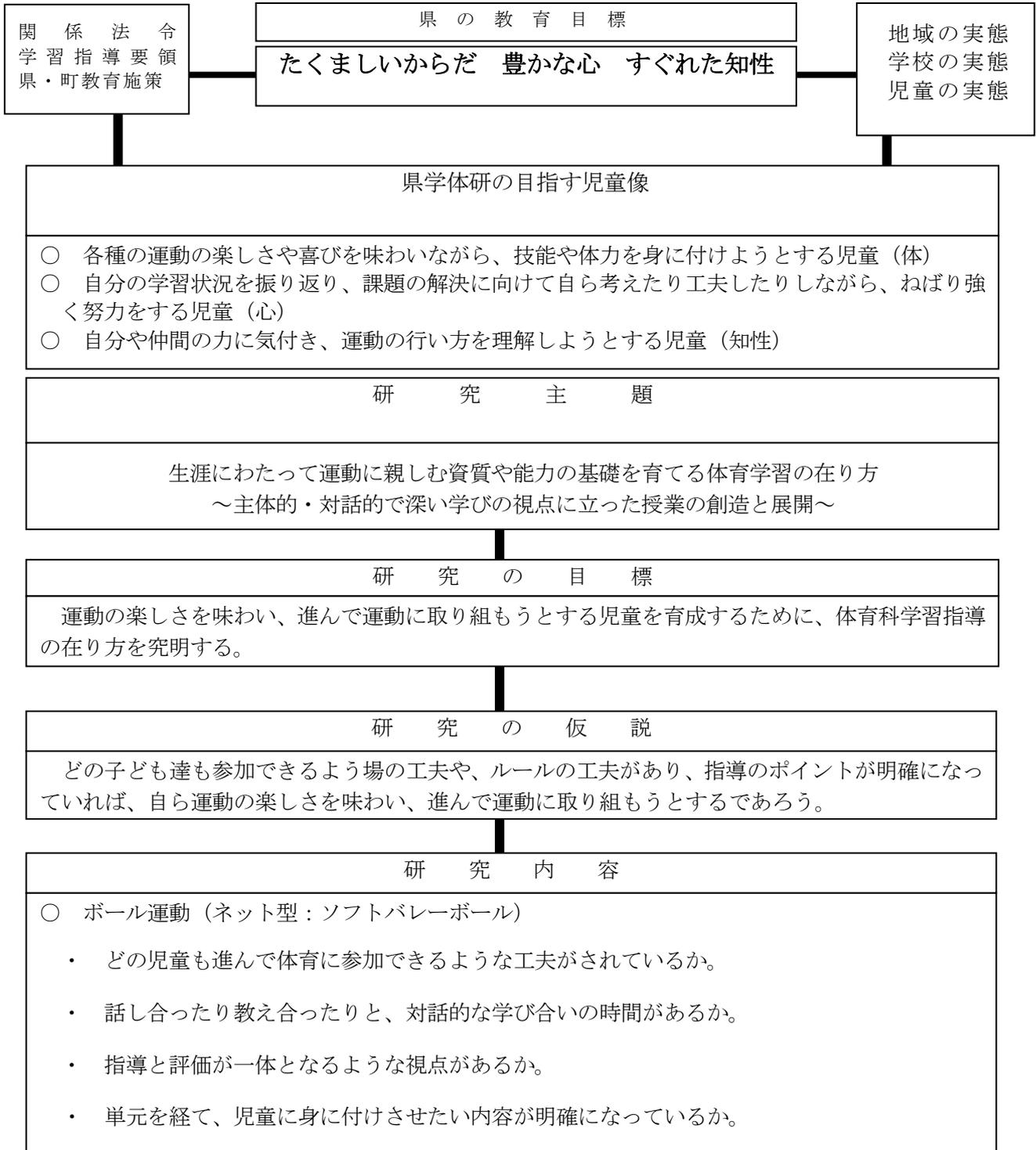
- (1) 各校の記録をデータでまとめ、C4thの個人連絡機能にて集計する。
- (2) 事業部で記録を集約し、第3回体育主任会で結果を報告する。
- (3) 各種目、1位から5位まで表彰する。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 研究の全体構想



3 研究の実際

(1) ボール運動（ネット型：ソフトバレーボール）について

① どの児童も進んで体育に参加できるような工夫

- 学級の児童の実態に応じて、ボール操作の基本的な技能を身に付けさせるとともに、仲間と連携しながら攻撃や守備をして運動の楽しさや喜びに触れることができるルールを工夫を行った。具体的には、キャッチ、ワンバウンドでラリーが続くようにしたり、サーブの位置を工夫したりした。また、本格的な練習の前にエアバレーを行い、声掛けや3回で返すことを意識づけさせた。

② 主体的・対話的な学び合いの時間

- 1単位時間の中に、対話的な学び合いの時間を設定した。この時間が深い学び合いの時間になるように、チームで目標を立て、その達成に向けての作戦を選んだり、単元前半で学んだ既習事項をまとめて掲示したりして、児童が課題意識をもって話し合ったり、教え合ったりできる工夫を行った。

③ 指導と評価が一体となるような視点

- 単元や本時のめあてが達成できたかどうか評価を行うために、ワークシートの活用と活動の観察を中心に評価を行った。評価をもとに、ルールや場の工夫等、次時の学習指導の工夫改善に取り組んだ。
- 児童に対しては、単元の始めにオリエンテーションを行い、どのような運動に取り組んでいくのか確認し、ゴールイメージをもたせることにした。
- 単元の3つの目標を身に付けさせるために、単元前半で基本的な動きや技能を習得させ、後半でゲームに勝つための作戦を選ぶことに重点をおいて指導することにした。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 児童の実態や運動の特性を踏まえて、ルールや道具、場の工夫が行われたことで、どの児童も主体的に運動に取り組み、仲間と連携しながら攻撃や守備をして運動の楽しさや喜びに触れることができた。
- 教師が「分析表」「秘伝の書（これまで学習してきたコツを一覧化したもの）」などの手立てを取ったことで、充実した対話的な学び合いの時間になっていた。
- 実態に応じてルールを変えていくことで、子どもたちの技能の向上が見られた。
- ゲームに参加する人数を制限することで、子どもたちの活動量を十分に確保したり、チームの状況を見たりすることで、スポーツの「する・見る・支える・知る」の視点をもたせることができた。

(2) 課題

- 話し合いに参加する態度が消極的だったり、ワークシートを記入しなかったりする児童がいるので、グループでの話し合いの様子やワークシートの書き込みを評価するだけでは、一人一人の思考や変容を評価することは難しい。一人一人をしっかりと評価していく方法を考える必要がある。
- 指導と評価の一体化については、教師が児童を評価するだけではなく、児童同士の相互評価を取り入れることで、技能の向上が図られたり、対話的な学び合いが深まったりする効果が得られるのではないかと。
- 得意な子が目立ち、その子だけが活躍しがちなので、全員参加を目指すために、児童相互で教え合う時間を確保する必要がある。
- レシーブ、トス、アタックというバレーボールの基礎技能が不十分なまま、高度な技に挑戦している児童が見られたので、土台となるような基礎練習を十分に積ませる必要がある。

5 参考資料

- 小学校学習指導要領解説 体育編